

婦人の子ども

第八卷
第三號

フベール會發元

第八卷第拾貳號目次

- 奢侈を戒む 下田 次郎
- 小兒の顔貌 三輪 信太郎
- 小學校と幼稚園との關係 大元 茂一郎
- 兒童の個性及其取扱法 松本 孝次郎
- 幼兒の遊戲は如何に指導す可きか 後藤 ちとせ
- 幼稚園問題に就いて 和 田 實
- 吾人の道往觀 樂 天 子
- 指吉の話 硯 山 人

本會役員

會長 東京女子高等師範學校長
 幹事 東京女子高等師範學校教授

編輯 高 池 雨 大 小 和 武 川 福 下 和
 村 嶺 田 森 關 關 田 井 口 田 田 田
 秀 五 士 網 九 夫 六 夫 六 夫
 實 づ く 枝 得 藏 清 田 劍 田

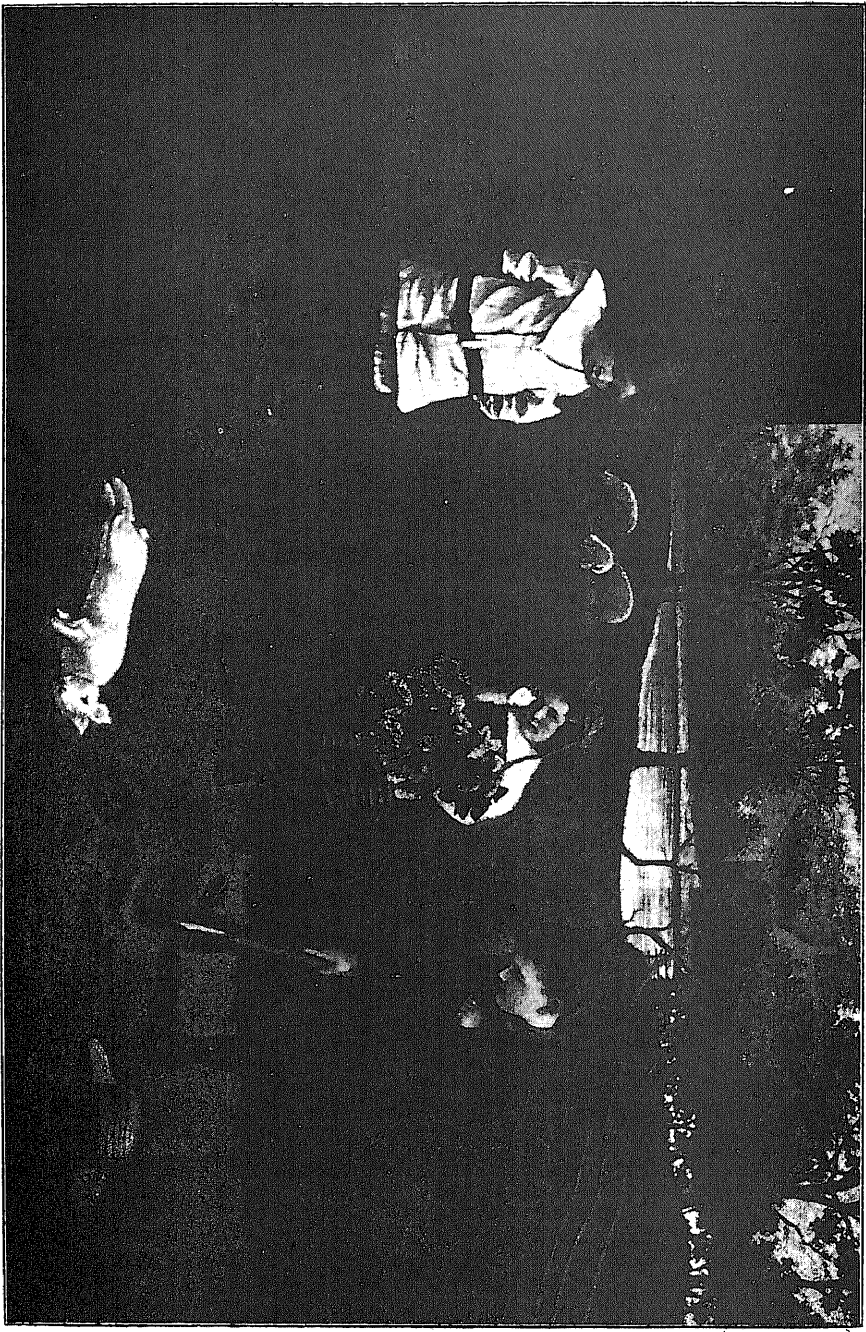
質問規定

本會は讀者の種々なる質問に應じます。婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は通信料封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

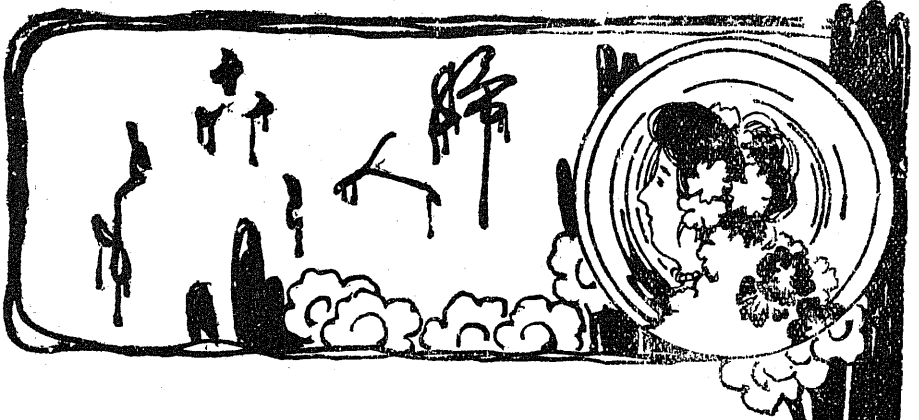
入會又ハ購讀手續

本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金拾錢の割合で一ヶ年分をまとめて本會に直接御申込下されば直に登錄して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は左の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい。

- 一册郵稅共金拾一錢
- 六册前金郵稅共六拾錢
- 拾二册同金壹圓貳拾錢
- 郵券代用一割増



知 葬 式



第八卷第二十號

香々

奢侈を戒む

下田次郎

今の人間は、一體奢りが過ぎたり。殊に婦人の奢り方、めかし方の法外なるは、甚だ苦々しき事なり。この借金と貧乏にて、首も廻らぬ我が國の今日に於て、何を頼み、何を當てにして、婦人は、斯くも、奢りめかす事をすぞ。

廣告を見て知るべし。婦人の奢り道具めかし道具の流行すること、前古未聞にあらずや。その大不景氣の世の中に、呉服屋、寶石商等、婦人を相手の店屋だけは、益々大繁昌にて、賣り出しなどには、巡查を頼んで、來客の混雑を制するの有様、呆れて物がいへず、成る程日本が貧乏する筈なり。あの奢る心掛けと熱心にて婦人が、穢いて呉れたらばどれほど、親と夫の息がつけ、家の遣り繰りも楽になり、延ては國の富を増すこととなるか、知れず。情なく、厭ふべきは、この奢り屋の婦人なり。

婦人には、人の物をたゞで遣ふの特權を有するが如く心得居るもの少からず。親や夫が、心配して、骨折りて、やうく、儲け出したる血の出るやうな金銭をば、遣ひ掛り、引き受けたりと、妻や娘は、やれ着物の帯の、襪り巻きの、リボンのと、遣ひ果して、五分も残らず。残るは借金ばかりなり、男子が瘡せるも無理ならず有る金を使ふは、まだしも夫に内證にて、借金の前借りをして、めかした擧げ句、高利貸に責め付けられ、執達吏に踏々込まれて、暗闇の耻が、明るみに出て、天晴れ美事な耻さらし、随分無茶なめかし方なり。奢る女を一人有することは、一家破滅の基。大概の身上は、二人は入らず、一人で澤山なり。往來でめかした女を見る度に、またこゝに例のが一人居るわいと、思はぬことなし。得意満面のその側には、親泣せ、夫泣せのその泣き顔が、ありくと見えるやうなり。

小兒の顔貌

醫學博士 三輪信太郎

近來幼稚園が盛になつて來て子供を預る人がよく衛生の方面や發育上の注意をするやうになつてよい點も多いが又陰の方のわるい點も少くはない。目下陰の點として世間からわげられて居る事は幼稚園から諸種の病氣を家庭に持ち込む事である。勿論近頃は幼稚園でも醫者と關係を持つて体格検査もし幼兒の病氣に際しては相當に行届いた手當もするがなほ學術品行共に欠點なく子供を尊重し子供に興味を持つやうな醫者を顧問とする必要がある。

然ういふ様な熟練者ならば子供の外貌を一見してその病氣を察する事が出来るし一度衣服を解いてその体を見たならば非常に重い病患で徴候の陰微なものとはかく大抵は聽診機を用ひないでも察する事が出来るであらうと思ふ故に熟練した醫者に一週に一度づゝでも見てもらう事にしたならば

家庭の病を幼稚園に持つて來る事もないし幼稚園の病氣を家庭に移す事もなくなつて幼稚園がかけのない安心なものとなるであらう。

私とても僅十年來の醫者であるから熟練したものとはいはれないが大概の病は外貌ばかりですぐにわかる勿論病は外貌ばかりでは精密な事はわかりかねるけれども多少わかる處の外表に就いて御話を致しませう、

○顔面

第一に現はれるのは顔である

初生兒は表情なくたいポツとして春の海の如く風なき川の面の如く極めて無心な外貌をして居る

これが生長するに従つて漸次に種々の表情をすゑるやうになる(洋書中の寫眞参照)

表情に立ち入る前に顔色に就て述べやう

△顔色

顔色には蒼白色、黄淡色、紅色がある

蒼白色——貧血に關する氣病に多い、即ち疲勞

結核十二支腸蟲營養不足等のものに

ある

黄淡色 〓 初生兒黄淡として生後數日頃黄淡色

紅色 〓 充血、發熱、羞恥(情の關係)その他

になりそれがすぐ直るのが普通であるけれども體質の弱いもの先天的梅毒性を持つて生れた子供は長く續く事があるその他には肝臓に内腫の出来た時十二支腸の部にカタルを生じた時などに黄淡を起す事がある
充血、發熱、羞恥(情の關係)その他病氣でいんと猩紅熱は全身の紅潮を生ず又皮膚の表面が紅く粟立つのはハンカなどである、
顔が一時紅くなつて又蒼くなるのは情の關係もあるけれども病氣では血管運動神經の障害、結核性腦膜炎は瘦せて居ても顔ばかりはよい色の事がある、

△顔貌

顔のひくみは枕をはずすと腫れるものがある病氣では百日咳、咽喉カタル、は上眼瞼が腫れ

るのである、

百日咳では時に咳のはげしい結果眼球の結膜が充血し又出血する事がある

その他顔の腫れるのは心臓の辨膜病、先天的心臓の疾患、感冒性腎臓炎猩紅熱などである
此中幼稚園で注意すべきは感冒性腎臓炎である
獅子顔(癩病で瘤ちつたやうな顔)ヒボクラテース時代顔(古き時代に悟つた人の顔)死に頻した人の顔の如き極端のものは取除けて次に表情に就いて説しませう

△表情

○痛みの顔 〓 痛みを制止せざるに發表する場合耳痛(中耳炎)尿管の痛、腹痛、尿のつまりし時

などの表情は
目をしばた、き顔に雛をよせ涙ぐみ顔を紅くして汗を出し手足を動かして泣きさけび又は慄へるのである

○痛を我慢する顔

眼瞼を開放して眉をよせ口を半閉ぢ口角をよせ小聲に泣き時に溜息をもらしなどする、

これらは肺炎、肋膜炎、腹膜炎の病から来るものである

○恐怖の顔

恐怖呼吸困難夜驚(ねぼける)の時に起るので

ういふ時には

小鼻を動かし口唇にチアイゼ(紫色)即血行

わしき時の如き様)を呈す、

病氣では心臓疾患、猩紅熱、重症ジフテリーを

起した時にかういふ顔つきをする、

○痙攣の顔

破傷風初生児の破傷風は俗にホウツキ虫とて全

身痙攣を起す、これは産婆の消毒が不充分なり

し爲めに生するのである

普通破傷風は全身に痙攣を起し口がさかれなく

なり飲食物の嚥下が出来なくなるのであるその

原因は微細の傷から破傷風菌が入つて起るので

その時には顔がお面のやうになる

脳の疾患の時にも此顔即俗にいふ苦笑をする

ペタニーの病氣でもこのやうな顔つきをするから注意すべきである

○痴放状の顔貌(馬鹿の類)
以上顔つきに就ての大体である

△口唇に就いて

口唇の周圍がチアノーゼ(藍紅色)となる事があ

るこれは先天性心臓疾患に原因するもので運動

の後に殊に著明になるのである又アンチピリン

中毒から来る

△耳の邊に就て

外聴道 プルンケルロースが出来ると耳の前

がコンモリと腫れる事がある又耳ダレで濕潤す

ると淋沍線耳下線が腫れる事がある耳下線がひ

どく腫れると紅くなるさまでならずとも耳の

後まで腫れて押すと痛む事があるそれは副症と

して起る事があるが又耳下線炎のみ起る事もあ

るこれはさして注意を要しないが耳ダレはよく

注意しないと化膿性脳膜炎を起す事もある

△頸部

目につく變化は頸を傾ける事であるこれはキヨ

ーサ乳頭筋の炎症を起した時又子供が生れる時

に分娩困難で機械で壓迫された爲に頸が傾いて

しまふ事がある
咽後膿瘍いんごうのうしやうといつて咽頭の後に膿がたまつて外又
は咽喉いんこうの方に流出する事があるこれはパヒフに
似て咳込む事がある

パヒフにはデフテリ一性の義膜が咽喉に出来て
呼吸困難ききうこんなんになり吠えるやうな咳をして鼻翼びよくをう
ごかし胸廓きょうかくのミゾオチがへこみ鎖骨上下ノドボ
トケの下が引込むのである

△咳

咳には

吠える咳は(一番危し)

乾いた咳か(刺激性デフテリア肋膜炎咽喉
の障害に起る)

濕つた咳しめ(氣管支カタル肺炎の時の如き
ゼロくしたせき)

痙攣性のせきけいれんせい(百日咳)

その他に喉頭カタルでも咳が出るのである、
パヒフ即チフテリは始めは咳が出て進んで來
ると咽頭に義膜が出来る

◎女の壽命は漸々縮る (富士川ドクトル)

子供は生れて二、三、四歳の間を充實期と云つて
横に延びる時期、五、六、七歳を伸長期と云つて
豎に伸びる時期としてあるが、成熟期になると女
子の方が男子よりも非常に速い、それから生後一
年位の間に死亡する者は女の子よりも男の子の方
が非常に多い、然し其れ以後は女の子の方が男の
子よりも病氣に多く罹り易い、また女の子の脳は
生後七歳で丁度四倍大に發達するが、男の子は十
三歳になつて初めて四倍大になる、それから長命
な者も百歳以上になると男よりも女の方が多し然
し是は女は男よりも身体が丈夫に出来て居るから
では決して無い、女の身体は男子よりは確かに弱
いのであるがそれが能く長壽を保ち得たのは、従
來女の周圍の社會が比較的靜穩であつて、命を縮
める様な原因になる事が少なかつたからである。
であるから今日以後、婦人も男子と同様に社會の
表面に立つて働く様になると、勢ひ婦人の壽命は
追々短縮するに違ひ無いと、思ふ西洋でも婦人を
郵便、電信、電話等に使用する様になつて以來婦
人の病人が非常に増加したので、今日では問題に
なつて居る。(大日本女子教育會總會に於て「婦人
の身体」)

小學校と幼稚園との

關係

大元茂一郎

私は幼稚園のことはしりませんが幼稚園のことを小學校に加味してやつて居るのでありますから其ことの御批評を頂きたいのであります。お話を致す前に教授法の變遷に就て申しませう。

教授法は學校教育の十中の八九を有して居て甚だ大切なものであらうと思ひます。そこで昔よりこの方法に就ては多大の研究を積んだものであります。まづ大体に教授法の變遷を別けて見ると三つの時代がある。

第一暗誦時代——これは教師の通り繰り返し眞似をする方法で其結果は生きた蓄音機が出来上つて役に立つ人間は出来ないのであります。

第二直觀教授時代——充分に理解させなければならぬといふ所からそれには吾人の感覺機管に訴へてよく腦の智識にするといふ方法である。

繪などを多く見せ音ならば直接に其音を出して聞かせるのである。然しそれは神戸に行く鐵道線の如く何事にもパノラマ的で効果がなかつた。

第三筋肉運動主義——これは目下教授界に起りつゝある練習主義をいふのである。感覺機管に訴へるばかりでなく機管を運動させる結果完全なる智識を得させるといふ方法である。そこで實際にあてはめて見ると眞に智識を得る媒介となるかといふに例へば物を見るにもたい見るとは目を運動させて見ればよく見ゆる様なものである。又物をさきにも耳を傾け動かして聞くやうにする方がよく聞える。觸覺でも唯さわるよりも指先を運動させれば硬軟粗密がわかるのである。即ち筋肉を運動させた結果其性質を精確に知ることが出来るのである。

以上は身体的の方面から見たのであるが心の方面より見ても筋肉運動主義は大切である。今記憶に就て言つて見れば記憶するのに視覺式の人と聽覺式の人と運動式の人とある、此三つを比較して見るのに聽覺式よりも、視覺式の方が明か

に記憶が出来視覚よりも運動式の方が深く記憶の出来るものである少年時代に竹馬に乗つた場所や様子はわすれても乗り方は記憶して居る繪なども唯手本を見るだけでなく空中にでも自ら書き見る方がよく記憶が出来るのであるこれを見て運動式がいかに記憶をつよめて居るかがわかる今後の教授は此様にして身体的表出を澤山にやらせなければならぬと思ふ此點から見ると幼稚園の仕事は主として筋肉運動主義によることが多いのであるから幼稚園で研究したことは小学校に提供して参考とならしめなければならぬそれで私が此主義によりて研究したことの一二を申上げて見ようと思ふ

一、砂箱の研究

深さ五寸ほど大さ隨意小學校教科書中の草木の競走を教授するに就て普通は圖を見せてはなすにといまゝるけれども砂箱を用ゐてまづ山を作らせ他に旗を作りそれに草木の名を書きつけ各自に持たせて草木競走を

させ高山に發生することの出来ない草木から順次に其位置に止め行き最後に昔が高山に登り勝を占むる様になる二見が浦を作り舟を作りてそれを置かせ其置かたに就て風と帆との關係を知らせることが出来たのであるかうして更に新しく物を作り出すといふことは注意を深くし智識を精確に細く筋肉運動をたすける得點がある幼稚園でも此方法は出来はしないかと思ふ桃太郎の話をしたならば其形を部屋隅にでも箱を置いて作らせてもよろしいと思ふ、英國では生徒も教師も砂箱をもつて字をかいて居るのを展覽會の寫真で先日見たのである、

二、二分間体操

小學校教科の内遊嬉と体操は智と直接には關係がないが間接には關係ありて大なる筋肉の運動をする効があるから今更でよりも一層に必要であるかういふ様な効あるものであるから幼稚園でも大きい組には規律的運動に馴れさせて小學校と幼稚園とを關聯させる方便として二分間体操

をさせたらよからうかと思ふればかりでなく物にわいたころにこれを行つたならば姿勢を正しく心氣を一轉して新しき勢力を得させることが出来るから行つたらよからう

三、教育上に鏡を用ゐること

發音の矯正に鏡に向はせて口の形舌のつかひ方をなほすことは効果あるものであるこれは先年博覽會に於て偶然に發見して用ゐたのである鏡を用ゐるのはこれのみでなく平面圖を理解させるにも効果がある生徒に地圖を示しても平面を理解させるのが困難でありしが或時物の置かれし處を鏡を用ゐて上からうつして見せた所がよく平面圖を理解することが出来たこれも幼稚園にも應用したならばどうであらうかと思ふ

◎臺所の疫病神

二宮翁は、台所や流しの窓を反古紙で張ることを大變に嫌はれた、反古で張ると只さへ暗い台所は益々陰氣になりて貧乏神の宿に持つて來いと云ふ機になる、それだから奥座敷でも何處でも反古で張つて差支ないが、流し元の窓だけは白紙で張ると常に云はれたさうである。

兒童の個性及其取扱法

文學士 松本孝次郎

次には孤立的兒童と申しまして他の子供とはると云ふことの性質を缺いて居る、さう云ふ特別な個性を有つた者があります。それはどう云ふやうな子供かと言ひますと、例へば幼稚園に行きましても他の子供とは少しも遊ばない。自分獨りだけ廊の方に離れて仕舞ふ。それは唯だ他の子供に近付かない許りては無い、保母の側にも中々近付かない。口は利かないで黙つて居ると云ふやうな風の性質の子供で、之を孤立的兒童と言ひまして、詰り子供としての社交的の性質を全く缺いて居る子供を言ふのです。是れはどう云ふやうな場合に多く起つて來るかと言ひますと、或場合には疑惡的の性質を餘程餘計に持つて居るやうな子供が斯う云ふやうな有様を呈します。其疑惡的の性質がどうして養はれたかと思ふと、例へば多くは違つた親の手に育つてさうして割合に残酷な扱ひを受けたと云ふやうな所からして、他の人に對する信用となふ精神を少しも持つて居らぬやうになる。入を見ればもう直ぐに自分に對して苦痛を興へる者ではないかと疑やうな話、さう云ふやうな場合に疑の心と云ふものが多くなつて來まして、他の人どうしようも近付くことをば厭やがると云ふ風になる。さう云ふやうな子供には屢々外部から見て幾らか痴鈍ではないかと思はれる容子の子供があります。例へば指を咬へて居るとか或は唯だ他

の子供の容子を見てさうして笑つて居ると云ふやうな風の子供がある。併し孤立的の子供には實際眞から馬鹿であると云ふやうな手供は少ない。其孤立的になつたと云ふ原因を探究して見れば、精神の痴鈍な爲めでは無い、智力が多少發達して居る爲めに、また自分が此人に接近して禍を受けはしないかと云ふ風に考へることが出来る所からして、どうしても疑の心を持つので、却て智力が多少は發達して居るやうな場合に此孤立的の性質を持つのがあるのです又或場合には家庭で以て其子供を非常に大事に取扱つて子供の部屋よりは外に出さなかつたとか、或は年寄が始終側に付いて居つて唯だ年寄だけの手で以て何時でも大事を取つて育つて居つたとか云ふやうな場合に於きまして、矢張りそれ迄の間に社會的の愉快をば感ぜしめない所からして孤立的の性質が起つて来る。詰り他の子供と近付かしめると云ふ機会を餘り作らなかつた爲めに社會的の快樂と云ふことをば經驗して居らぬからして、自ら求めて他の人と近付くと云ふやうな事をばしないやうになつて仕舞ふのです。それだからして他の者に近付けないと云ふことは、悪い感化を受けしめないといふ方から言ふと、丁度疊の上で水練を稽古しやうと云ふやうなものであつて安全には違ひない。けれどもそれで又完全なる教育は受けられないのです、だからして能く其友を選んで成るべく危険な事のないやうにして社會性か養ふと云ふことが子供に取つてどうしても必要なのです。多くは老人杯が家の中に引つ込めて置いて育つた子供に斯う云ふ風な性質を形造るやうになる。斯う云ふやうな子供は自分が知つて居る事でも夫れを發表するを厭がるものであります、それも矢張り幾らか

疑の爲め或は是迄他の人に接して居らなかつたと云ふ事情の爲めに之を發表することを厭がるものである。それでありますからして成るべく斯う云ふやうな子供に向つては、能く知つて居る事を發表させるやうな機会を作らねばならぬので、詰り子供が答を與へると否とに拘はらず、此方からして屢々發言を試みると云ふことが餘程大事なのであります。此類の子供は幼稚園では凡そ三ヶ月間も費す積りであるならば、此孤立的の性質を矯正することが出来ます。其方法は若し其子供の家の側からして矢張り幼稚園に來る子供がありますならば、成るべく最初は餘所の子供に誘はせると云ふやうな方法を採ることが大變に宜しいです。若し其子供だけでも幼稚園に來ることを厭がるならば、矢張り其家の人とそれから誘ひに行つた子供と其孤立的の子供と初めは一緒に通ふて來ると云ふことが大變に必要です。さうして其孤立的の子供に近付ける方の子供はどう云ふ子供を選んだら宜いかと云ふと其望の中でも性質の好い幾らか智力の發達した子供を選んだ方が宜い。詰り稍々優等な子供を選んだ方が宜い。さうして其優等な子供には、矢張り保母の方と一緒に遊んでやつて呉れるとか、一緒に仲を善くして呉れるとか云ふやうな趣意を知らしめて置く方が宜い。詰り言はゞ自分の方から移めて友達になつて行くと云ふ態度を持たせるだけの目的をば此方で以て示して置く方が宜いのである。それからして幼稚園に於て初めから團體の中に無理に其子供を入れやうと云ふやうなことは務めないで宜しい。唯だ傍らに置いて見せ置けば宜しい。詰り他の子供が社會的に遊んで居る、或は一つの團體を成して遊戯をして居るのを見て、自然の間

に如何にもあれは愉快さうなものであると云ふ感じを持たせるやうな事が出来ればそれに、依つて即ち社交的の精神が起つて来るものであるから、先づ初めは其興味を惹起するだけに愉快なる遊戯と云ふものゝ方法を此方で示すと云ふことに務めれば宜しいのです、併ながら唯今申す通り孤立的の子供は自分から發表するのを好みませぬからして、其仲間入りをするると云ふことに付ては此方で仲間入りの出来る機会を作つてやらなければならぬ。即ち保母の方で時々はその仲間に入れて見ると云ふことをして之を誘ふことが大變に大事です。さう云ふ類の子供は今お話するやうに二三の優等な子供に吩咐けて接近させると云ふことも大事であるが、又成るべくならば保母自身が其子に接近すると云ふ手段を執ることも務めなければならぬ。此類の子供は保母が多く言葉で以て親切に言ふてやるよりは、其子供の身体に直接に親切の意を示すやうな方法の方が却て効力が多い。例へば其子供の手の汚れて居るのを拭いてやるのが洗つてやるとか、或は鼻液の出で居るのをかんでやるとか、或は其子供の手を持つてやるとか、頭を撫つてやるとか云ふやうな風に、言葉で言ふよりは、身体に直接に接觸して親切を現はすと云ふ方法の方が効力が多い。さうして其類の子供は自分が手を引かれると言つても、特別な子供で無ければ厭やがるものであります。始まりからしてどの子供にでも手を引かれると云ふことは好まないで、自分が接近して少しも疑を懐かない、先づ此子供ならば安心だと感じた子供だけに手を引かれるものでありますから、強いて他の子供と手を引かせるやうな事にしないで、自分から悦んで手を引かれると云ふ子供に手を引かせて置く

方が宜い。さうして請り社交的の愉快と云ふものを感じさせて、それからして又他の優等な近い子供をば其中に新に加へると云ふやうな方法を探つて、段々に實際の範圍を擴めると云ふ手段を執ることが餘程宜しいのです。それで最初は遊戯の中に遣入ることは出来ぬにしても、行進の時には何時でも其中に入れてやるると云ふことを忘れてはならない。或は行進の度數をば一日に何度か殖やすと云ふやうな事も必要である。必ずしも全体の子供の行進と云ふことで無くても宜いから、特に其子供の爲めに短い時期の行進を作ると云ふことも餘程必要である。さうして其行進の場合に、最初の中は成るべく保母は其子供に近い所に居る。それから其子供の傍らには其子供が平生接近して居る所の親しい友達を選んで置くると云ふやうな事も必要な注意であります。假令此様な孤立的の性質の者で社交的の興味は持たない者でありまして、智力が缺乏して居る者の外は必ず模倣性には富んで居るものでありますから、幼稚園で保育して居る所を見てそれに模倣して其通りをやつて見ると云ふことは必ず出来るに違ひない。即ち痴鈍で無い者でありますならば、必ず保育の方法をば覺えられないことは無いでありますから、發表はしないで其子供は知つて居るものと略ぼ認めることが出来る。唯だ多勢の前でやつて見ない、或は唯だ多勢の中に遣入らないと云ふ迄であります。今申したやうな方法を以て致しますならば、普通の幼稚園の組織に於きまして、凡そ三ヶ月以後には儘かに孤立的の子供が社交的の性質を現はすのを見る事が出来るやうになります。それから斯う云ふやうな種類の子供は將來に於てはどうであらうかと言ひますと、將來に於

てはそれ程心配するには及びませぬのです。一度社交的の興味を感じますと云ふと、従来の性質は段々に革まつて参りまして、終には少しも心配するには及ばぬやうな普通の子供になつて了ふのであります。で或る場合には子供が發達することが不十分である爲めに一時現はす所の孤立的の性質の子供と、それから個性として有つて居る所の性質の子供との區別を立てることが非常に必要である。割合に智力の發達が遅いやうな者でありまると、他の子供と共に遊ぶと云ふことの愉快を知りませぬ。詰り自分獨りで以て例へば庭に出て居つても木の葉を摘んで居ると云ふやうなことで満足して居る場合があります。是れは個性として孤立的になつて居るのでは無いので、また其智力が充分に發達して居らぬが爲めに他の友達即ち生きて居る所の者と遊ぶことを知らないのです。それは全く唯だ一時智力の發達が不十分な爲めに現はす所の現象でありまするからして、さう云ふのは直きに其孤立的の性質は失ひます。けれども今私が個性としてお語致しました孤立的の兒童と云ふのは、唯ださう云ふやうな簡單な事情から来るのではありませぬから、どうしても此性質を失はしめるのには割合に永い時日を要するのであります。

次に弱志的の兒童、意志の極く弱い個性を有つて居る所の子供に付て言ひます。此意志の極めて弱い所の子供と云ふのはどう云ふやうな有様で以て現はれて來るかと言ひますと、自分で或る事を考へても何處迄も之を實際に行ふとか、之を實際に現はすとか云ふやうなことを能うしないのです。詰り目的を充分に達すると云ふこと迄はやらないのです。兎角引ッ込み思案と云ふ方で少し勇

氣があつてもマア止まると云ふ風で途中で直きに止めて仕舞ふのです。それからして此弱志的の子供は直きに助けを他の人に求めるのです。自分がやらないで直きに他の人にやつて呉れと云ふことを言ふのです。俗に所謂どうも氣が弱くて何も自分でしないで困ると云ふ、斯う云ふ子供が即ち弱志的の子供であるのです。此類の子供はどうして斯う云ふやうな性質になつて行くかと言ひますと、或る場合には智力と云ふものが充分に發達しないと斯う云ふやうな有様を現はすことがある。詰り其智力が充分發達しませぬと云ふと決斷と云ふことが不十分なのです。自分で實際行に現はすと云ふ所迄決斷が出来ぬで了ることがありますから、それが爲めに弱志的の状態を呈するので、それから又或る場合には子供の世話を餘り多くやき過ぎますと云ふと弱志的になります。詰り云ふと俗に申します察しの善いやうな人が子供の側に附いて居ると云ふと動もすれば弱志的の子供にしてしまふのです。詰り子供の要求する必要な事が前に既に分つて居るので、それを其通り充分満足させるやうに傍からしてやつて仕舞ふのです。やつて仕舞ふからして子供が自分自身で働く部分が非常に少なくなるさうすると弱志的の子供になります。何故子供が自分自身で働く部分が少なくなれば弱志的になるかと言ひますと、餘り子供に何事もさせないやうな方法を探りますと云ふと、子供自身が自分の力は何の位あるかと云ふことを認むる機會に少なくなつて來るので、即ち自分の力をば恃みにすると云ふやうな自主自立的精神が滅つて來るのです。そう云ふ事の爲めにどうしても意志が弱くなつて参ります。此類の子供をば直しますものには、一方

からは智育を矢張り餘計にやつて行かなければなりません。其子供の智力を養ふと云ふ方の手段はどうしても執らなければならぬ。智力を充分に養ひますると決斷も能く出来るし、又或る事柄に注意を充分に集めることも出来るやうになりますから、どうしても此類の子供には智力の養成と云ふことを決して缺いてはならないのです。尙ほ其外に此類の子供には、己れの方を用ひて働いた時に其働いただけの結果が能く現はれ易いやうな遊戯を多くやらせた方が宜い。例へば碁を投げると云ふやうな事でも其子供が力を用ひるとが多ければ遠くの方に行き、力を用ひることが少なければ遠くの方には行かない。即ち其方に此例して其處に結果がチャンと現はれて来る。或る作業の中でも其處で製作品が出来ると云ふやうな作業でありするならば、自分の力を用ひた結果が其處に明かに現はれて来るのである。即ちお前は是れだけの力があるぞと云ふことを傍らからして諭してやりましたならば、自分にも斯う云ふ事が出来たかと云ふことを感するやうになります。己れ自らが己れの方を自覺して自分で今度は物事をやると云ふ精神が養はれて行くのです。それでありますから此類の子供にはさう云ふやうな類の遊戯を多くやらせると云ふことが非常に必要です。夏の天氣に夕立杯が降つて来ると云ふやうな場合に、庭に砂山を築かせて其砂山が夕立の雨に對してどれだけ抵抗するところが出来たか、即ち雨の上がった後とで見ると砂山の姿がどの位變つたか、さう云ふやうな事をやらせて見るのは、子供に自分の力を認めさせる宜い方法である。或は海岸の地方であると波がやつて来ますが、其波に堪へるやうに海岸の砂で以て砂山を造らせて

見て、一度波の去つた跡にどれだけの形が残つたか、さう云ふやうに其力を較べさせて見ると云ふことは、詰り子供の力を自覺させる所の好い手段です。即ち霸志的の子供に向つての一つの好い取扱ひ方であります。意志が頑固であると云ふことは無論悪い事でありませぬけれども、頑固の正反對で意志の脆弱と云ふことも亦た悪い事でありませぬから、子供を取扱ふ上に於て之を矯正する必要があるのであります。

是迄お話しした所ではまだ充分に總ての個性と云ふもの、お話は盡きて居りませぬですけれども、併し幼稚園杯で普通に現はれる所の主なる個性に就てはお話しした積りでありますから、私の話は是れで止めて置きたいと思ふのですが、世間を見ますると、子供を取扱ふと云ふ事に付て割合に自尊心の多い人が先づ普通である。詰り自分が子供の時に受けた仕付け方に依て子供を仕付けて見るとか、或は唯だ自分の意見に依て子供は斯う云ふやうに扱つた方が宜いと云ふ考を持つて居る人が多いのです。其考にばどれだけの學問上の基礎があるかと云ふ事を調べて見ると、割合に學問上の基礎は乏しいと云ふやうなことが多いのであります。随分公平な考を持つて居る人でありませぬ、子供を取扱ふ事に付ては、ナアにさう特別な事をするには及ばない。自分の常識を以てやつて行けば間違ひは無いと云ふやうな考を持つて居る人が多いのであります。それは恰も病氣の際に於ける素人療治と同じことで、何時でもそれで安全であると言ふて恃みにして居ることは出来ぬのであります。子供を取扱ふと云ふことは矢張り一つの専門の技術であるから、必ず子供を取扱ふに付ては特別なる教育を受けなければ

ばならぬものだと言ふ考を成るべく世間の家庭に擴げたいものである。今日の幼稚園の保育法と云ふものを一方では幼稚園内だけで充分に改良すると云ふことも肝要でありますけれども、之を世間に普及して家庭に於ての子供の遊び方の中にも此保育法の精神をば入れるやうにしたいと私は希望するのです。現在の日本の社會に必要な事は、保育法の普及と云ふことにあらうかと思ひます。世の母親には一つの課題として子供の遊ばせ方と云ふ事は教へる必要があるやうに思ひます。それで今日皆さんが幼稚園の事案だけで無く、家庭に向つても保育法の普及と云ふ事に付て御盡力になりましたならば、餘程有益であらうと思ひます。(完)

◎御飯の炊き方(山下たかね氏)

△米のとき方

米は磨いで直ぐ炊くのは好くない、朝飯は前夜晝飯は朝磨ぐ様に一食位前に準備して置くのが必要である、そして洗つた米は夏は二時間位、冬は三時間位も水に浸して後能く水を切つて炊くのです。併し新米を水に浸くには能くない、此く水に浸した米は御飯を炊く時、少し水加減の控へるの

- 一、粘りがあつてうまい。
- 二、煮熟が完全だから消化し易い。
- 三、浸さない米の御飯に比べて一割中殖える。
- 四、薪に二割も得がある。
- 五、御飯の出来る時間が早い。
- 六、御飯の腐りが遅い。(家庭の便)

幼児の遊戯は如何に指導す可きか

後藤ちとせ

本篇は同氏が嘗つて本會幹事任職の頃折々に物せられたるもの、由にて久しく筐底に藏されしを頃者乞ひ得て誌上に掲ぐることを得たり。保育事業に熱心なりし同氏の思想は確かに會員諸君を益するもの多からんと信す。

普通遊戯とか子供の遊びとか申すのは子供の遊び全体を指すので即ち保育事項全体を含んだ廣い意味でつかつたので御座います、特に幼稚園遊戯と云ふのは四つの保育事項即ち談話、唱歌、手技、遊戯の中の遊戯で所謂狭まゝい意味の遊戯を指すのであります。従つて遊戯と云ふ言葉の中には廣狹二様の意味がある譯でありますが是から御話致さうと思ひますのは即ち狹義の遊戯を云ふのであります。

遊嬉の種類
小學校令施行規則中幼稚園に關した規則中に遊嬉ハ分チ隨意遊嬉及ビ共同遊嬉トナス

隨意遊嬉ハ幼兒ヲシテ各自ニ運動セシメ共同遊戯トハ歌曲ニ合ヘル諸種ノ運動等ヲナサシメンコトヲ要ス

とありませしが此規定中の所謂隨意遊嬉は雨天ならざる折は主として室外即ち遊園に於て致させますので保育者仲間では外遊と申し時には室外保育等とも申して居ります之に反して其の所謂共同遊嬉は主として遊嬉室内で致させますので之れをば内遊と名づけ他の唱歌談話手技等室内に於て行ふ保育事項と共に室内保育と申す折も御座います而し茲に注意すべきは該隨意遊嬉即ち幼兒をして隨意に遊ばせる場合に於ても幼兒は生れつき社交的のもので御座いますから各兒單獨に遊ぶと云ふ事はありません多くは三々五々打ち連れ、時には二十餘名も共同して一遊戯に耽けることもあり、且つ幼稚園が家庭教育で得られぬ教育的價値を有するのば實に同年輩の多くのお友達と一緒になつて遊ぶ其間に種々有益な結果を得ることにあるのですから隨意遊戯の際でも成る可く多數の幼兒等

が仲睦まじく共同して遊ぶ様に導かねばなりません。又所謂共同遊戯と云ふ語は保育者が指導の本で組織立つた遊戯をさせることでありますけれども子供が勝手に共同して思ひ付きの遊びを致すのも共同遊戯と云へないこともありません。其れで隨意遊戯なる語に共同なる言葉を對せしむるのは或は當を得て居らぬのではあるまいか共同と云ふ語には單獨とか孤獨とか云ふ語が對し隨意といふ語には保育者指導の下に行ふ遊戯即ち指導遊戯などいふ言葉を用ふるのが適當かと思はれます。で茲に幼稚園遊戯をば隨意遊戯指導遊戯の二種に分つことに致し又保育者間の日用語としては前者を外遊、後者を内遊と申すを便利上許す事として兩者の得失を述べませう。

隨意遊嬉は幼兒等が其の衝動により何等目的を自覺する事なしに致す遊嬉言ひ換へれば幼兒等は單に遊び度いから遊ぶので、何も遊んで身体を健康にしよととか心的發達を促さふとかいふ考をもて遊ぶのではない唯心の行くがまゝに己か欲する所に從て遊びませはるのでからこの事に倦めばその

事にうつると云ふ様に自由に自分の好にまかせるので従て終日わそんで居ても倦きると云ふ事かありませぬ而し素より子供の事ですから時には悪戯に陥る事もあり毒にも薬にもならぬ様な遊びをする事も多く隨意遊び全体が必ずしも教育的價値を有して居るとは云へませぬ之に反して指導遊嬉即ち保育者指導のもとで共同で致させる遊戯は保育者が幼児保育上の或る目的により考案し順序立てた或る形式の遊嬉を教育的方法でやらせるので御座いますから其間には我自ら規律もあり隨意遊嬉のなるべく幼児に自由を與へると異り例令出來得る丈束縛の感を起させぬ様注意はするものゝ幼児等は保育者の意志に服従し保育者の意によりて左右せられ活動するといふ事になるのです即ち隨意的遊嬉は幼児の方から申すと自動的で指導遊嬉は受動的であると申して差支がありますまいと兩者とも必要な譯で御座います。が指導遊嬉は其材料方の適否によつては幼児をして雷に興味を起させぬ許りでなく疲勞倦怠の苦痛を與へ不規律喧噪に終る事も少なくない様見受けられますから保育者

は十分同遊嬉の研究をすると共に實地練習を怠つてはなりません
 扱て指導遊嬉中には如何なる種類があるかと申すと先づ其形上から分ければ

行進的のもの（プロネードの如き渦巻の如き行進を基礎として作られたるもの）

靜止的のもの（探物の如き雷の如き全身の位置を變せずに行ふもの）

行進的靜止的兩様相混したるもの（右兩者の混同せるもの）

競争的のもの（此種のものゝは幼稚園にては上ノ組に至りて少しく喜はるゝのみ）

の四つになりませうが行進的の遊嬉中にも圓形を

なしたるもの直線形に進むもの渦巻形になれるもの等あります

が遊嬉の成り立の上からは唱歌の意義を遊嬉に表はしたるもの

唱歌の意義を遊嬉に表はしたるもの遊嬉に唱歌を附けたるもの

遊嬉に唱歌を附けたるもの全く唱歌と關係なきもの

等にも分たれ遊嬉の效果上よりは主として身體發達に有効なもの

等にも分たれ遊嬉の效果上よりは主として身體發達に有効なもの

等にも分たれ遊嬉の效果上よりは主として身體發達に有効なもの

等にも分たれ遊嬉の效果上よりは主として身體發達に有効なもの

等にも分たれ遊嬉の效果上よりは主として身體發達に有効なもの

等にも分たれ遊嬉の效果上よりは主として身體發達に有効なもの

主として躑け上に効あるもの
主として知育に重きを置けるもの
の三つに更に遊嬉者即ち幼児の上からは

男児に適したものと

女児に喜ばるゝものと

の二様にも見る事が出来ませう但し最終の男女児
云々の區別は幼稚園児童に取り分けて區別する必
要は多くの場合認めませんが小學校に移る近くに
興味をつけるため男女児に別々のもの例へば男児
には軍でつて女児には赤十字の遊嬉などをさせる
のは甚だ面白がる事です

隨意遊戯

従來の幼稚園の缺點を數へ擧ぐれば随分多いで御
座いませうが直接幼児に悪影響を及ぼした缺點中
の缺點といふのは室内保育殊に恩物に重きを置き
過ぎ一に手藝其他に保育事項の成績の美麗纖巧に
して是がまわ幼児の手に作られたのかと驚かるゝ
様な巧な成績物を出す事に熱中し活氣満ち満ちた
る幼児を室内に閉じ籠めて六ヶ敷御稽古に是を苦
しめ其精神を疲らし早熟の弊に陥らしめて更に隨

意遊戯の室内保育に勝れる價值ある事を認めな
つたのにあるのす
抑も「幼児の身体の全機關は譬へば壓搾せられた
發條の如く装置されたもの即ち十分成長して
大人が小児の小さな體軀の中に壓搾してつめ
込まれてゐるので彼は其壓搾せられたものを
段々押し擴げて遂に成人の体格を具へ成人の
精巧熟練を具へる様になり行くのである此目
的を達する爲に彼等は飲食し睡眠し運動する
ので其隣に目を開いて天井を見る時より寢床
に就いて催眠の守歌を聞く時に至るまで輪を
廻し鞠を投げ或は競争或は鬼ごつこ或は角力
といろいろに休む時の無いのは實に此目的の
爲である彼等はそはせずには居られぬ否それ
を恒へて居てはならぬのである」とはテーロ
ルとかいふ西哲の其著「兒童の研究」中に書かれた
言葉であるそうですが幼児が日中絶え間なく活動
して居るのは實に此理に基因するので之を束縛し
之を閉ぢこめ恰も大人の細かさ手細工に等しき六
ヶ敷げなる物事に登園中從事させ様といふのは實

之を閉ぢこめ恰も大人の細かさ手細工に等しき六
ヶ敷げなる物事に登園中從事させ様といふのは實

に幼児發達を妨害するもの恰も暖き日光の下に威勢よく成長せんとする樹木！他日は天をも摩するに至るべき性質を具へたる其樹木を繩を以て曲げ竹を添へて撓め遂に不自然なる一小盆栽に終らしめんとする様なもので御座います。せう幼児をして其活動を十分ならしめ智徳体の三育上遺憾なき發達をなさしめ殊に學齡前最も著しき身体の發育を十分に助長せしめんには彼等をして保育者の行き届きたる保護のもとに自由活潑に活動し運動させるが何よりの必要で御座います。初て此必要を満足せしむるものは何か是れ實に隨意遊嬉を措いて他に最適法を認め得ぬので御座います。から隨意遊嬉は小學校の遊歩時間とは全く性質の異なるもの保育者は此間最も熱心なる注意を以て彼等の可弱き身体を保護し管理すると同時に各兒の個人性をも觀察すべく自然界にも親しましむべく幼児間の交際をも圓滿ならしめつゝ彼等をして危険なき限り害なき限り十分なる活動をなさしめねばなりません。地價高き下の幼稚園并に舊式の幼稚園には狭き遊園の設けすらなく全保育時間中を室内で過さ

しむるは往々見受ける所ですが斯る幼稚園は實に保育法の根本をあやまれるもの室内保育は隨意遊嬉に疲勞せんを虞り之に休憩を與へんがために全保育時間中適當に配合挿入せられたものとまで見做しても宜しいので御座います。で次に吾「遊園」並びに「隨意遊嬉中に於ける保育者の心得」につき思ひ出づるまゝを御話しいたしませう

遊園につきて

前述の如き隨意遊嬉の必要を認めた幼稚園では大抵全保育時間（一日五時間以下）の半以上は遊園で賚らさるので御座います。から遊園の設備の完全であるか否とは幼兒心身の發育上大の關係あるべきは當然の事で御座います。先づ其廣さに就いては例の施行規則中には

遊園 幼兒一人ニツキ一坪ノ割合ヲ以テ設ク
ルヲ常例トス

とありますが出来る事なら更に十分の場所を取つて園内には築山あり立木あり魚の池中に躍るあり噴水の涼しげに舞ひのぼるあり四季折々の花咲き匂ふ花壇には胡蝶蜻蛉の飛びらがふあり緑深き菜

園には日常有用なる野菜類の發育せるあり、彼方の檻には鳩鶏、兎扱ては何かと愛らしき禽獸の遊べるあり此方の芝生には草摘む少女ベンチに倚りて歌うたふ三人四人、臺には鞠つく姿、砂場には城廓築く愛らしの水兵服、旗を肩にし軍ごつこに得意然たる男兒の一群など、夏は砂塵に身を汚さず冬は霜どけに靴を穢さす思ふまゝに思ふ事して遊び廻れる其間に彼等は植物を知り動物に親しみ自然界の子として十分なる發育を遂ぐると共に其心情を純美ならしむる極樂園でなければなりません殊に庭園に乏げしき都住居をなす幼兒等を保育する幼稚園ではせめて庭園中丈にても廣々とした場所清浄なる空氣の中で自由に活動せしめ且つ動もすれば缺乏せんとする自然物に對する基礎的觀念を此うるはしき遊園内に養はしむる事つとめなければなりませんフレール先生が嘗て都會は幼兒保育に適せずとして幼兒を率ゐて態々田舎に移られた美譽は誰もよく知らるゝ所、希くは都市の幼稚園をして都會中の田舎、紅塵中の淨土たらしめんことを、

隨意遊嬉中に於ける保育者の心得
扱て斯る美しき遊園が出来たとして保育者は如何にして幼兒を此處に遊ばしむべきか即ち保育者が隨意遊戯中心得べき事々を左に擧げること致しませう

(イ) 保育者は幼兒の友たると同時に其が保護者監督者たる事を忘れぬこと

單に幼兒の友たらしむ事にとむればよく幼兒に親む事は出来ず或は保育者に相當に必要なる威嚴を損じて幼兒の我儘を増長せしめ或は遊びに熱中して身体上の危険を未發に防ぐの餘裕なきに至る等保護監督の目的を忘れ又保護者たり監視者たるに偏すれば幼兒等は保育者を敬して遠ざけん事を思ひ兩者間賢母良兒の關係を保つ事が出来せんから保育者は常に此注意條件を心として遊園に立たねばなりません但し始めて保育者となりし新參りの保母達は宜しく先づ幼兒等の友となり彼等に親近して兩者の愛情厚きに至りて後保護監督を兼ね行はん事これがとるべき順序で御座

いまず古諺にも「信ぜられざれば諫めず」とある通り保育者が其感化を十分幼児に與へんには先づ親しみ信じられん事を先きにせずばなりません

(ロ) 常に受持全体の幼児に注意すべき事

五六人の子供の群にのみ立ち交り他の幼児は今何處にどうして居るのやら少つとも關係なしでは何時どの兒が怪我をするか遊園のどの隅に惡戯が行はれて居るかも知りますまいでよく全体の幼兒に目を配り幼兒總てが温き保姆の保護のもとに遊んで居る様でなくてはなりません、有害な遊びを除くの外は故なく幼兒を束縛せず成るべく自由に遊ばしむること

- 衛生上有有害な遊び
- 危険な遊び
- 賭事に類した遊び
- 陋劣野蛮な遊び
- 残忍酷薄な遊び

他兒の妨害となる遊び

等を指すものです。保育者が臨機判断して保育上害ありと見たなら例令幼兒が喜べる遊びでも早速相當な忠告を以て止めなければなりません。但し此際或る特別兒に對する外は譴責叱咤の言を用ひぬ様注意すべきです

(二)

已に言語をわやつり得る程に成長した幼兒は殆んど飢え渴して居るかの様に話對手を求むるものです。殊に幼稚園に入る年齢にもなれば同年輩の友垣と遊ぶのが何より面白げに見え幼兒と云ふ幼兒は常に數人相集つて遊んで居ますが又能く喧嘩をするもので一つの物を取り合つて争ひを起したり自分の嫌いな兒は仲間入りさせなかつたり他兒の所有物を欲しがつて強い兒になると奪ひ取たり意に従はぬ者は除名したり黙つて見て居ります。是れ幼兒は色々な裁判事件が起つて來ます、是れ幼兒等は元來事物に對する欲望が強いのに根が正直で飾り氣がありませんから思考なしに遠慮

なしに其心を發表するので斯る利己的の行爲を敢てする場合が多いのですから保育者は物やさしき忠告説諭等により漸次禮讓の美德を養はしめ常に共同の樂を樂とする良習の養成につとめねばなりません

(ホ) 遊園は常に清潔にして且つ危険物なく美的にして幼児の心情を優美化せんことに注意すべし、

掃除はよく行届き設備品の破損せる物等なく花壇の手入動物の飼養等は幼児等と共に親らし自然物に對する愛情美感を養ふが必要なこと

(ヘ) 天候の如何により隨意遊嬉時間の長短を斟酌すべきこと

春や秋の暑からず寒からぬ季節には比較的外遊の時間を多くし酷暑酷寒の折等は幾分斟酌して室内保育の數を増す際注意すべく風荒ぶ日雨降りしきる折には遊園に出づるを見合す

(ト) 幼児心身發達の度即ち普通年齢の異なるにより

て外遊時間に長短あるべきこと

幼児發達の度合は一年違ひと申しても著しき差違のあるもので御座いますが幼少な兒ほど外遊時間を多くしもう小學校へ移つる頃になりましたら漸次室内保育時間を長くするが宜しう御座います

(チ) 遊園内の規律を守らしめよ

自由と服従とは保育上必ず伴はしめなければならぬものですから一方自由に活動せしむるに注意すると同時に他方定れる園内の規律には幼児ながら何處までも従はせなければなりません例へば樹木の枝を折るべからずとか、砂場の砂は他の所に持ち出さぬ事とか柵の向ふには行くべからずとか、色々心要上から保育者が定めたる規則には必ず従順に服する様心掛けさせねばなりません然らざれば粗暴亂脈輕卒虚偽等厭ふべき惡習を醸すに立ち至ります但し注意すべきはなるべく少なき規則の下に安全に故障なく遊び得る様遊園設備に注意し且つ守り難き規律命令を出さぬ様心す

(リ) べき事です

自洽の精神を養はしむべきこと
隨意遊び用として貸し與へたる玩具の出し入れ、所有品の始末、身廻りに關したる用事等は成可く各自に親らせしめ自洽の良習をつくべきです

(ヌ) 男女兒の間に自然性質の差違の表れて來る迄は隨意遊嬉中も此區別を立てる必要のなき事

(ル) 友情養成に注意すべきこと
例へば借りたる物は返すべきこと、か承諾した頼みは必ず爲てやるべき事とかお友達の悪事を挙げぬ事とかを始め友に對する義務並に組に對する同情心を起させて公德心の基礎を作つてやる必要です

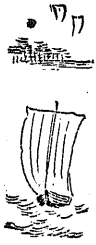
(ヲ) 幼兒の遊びに注意して其が中より指導遊嬉の材料を見出すにつとむること (前述保育材料選擇の節参照)

(ワ) 各組の交友を計るべきこと
二組以上ある場合には隨意遊戯の際各組相親和せしめ上ノ組の兒は下ノ組の兒を痛はり年

(カ) 少の兒は年上の兒に讓歩するの良風を養はねばなりません
隨意遊嬉中特に幼兒等が個性の觀察に留意する事

幼兒個性の研究は決して讀書のみに依つてなし得るものではありません小兒に關する心理學書を読むと共に幼兒生活實際の觀察を怠つてはなりません即ち其の他兒と語れる際其室内保育に於ける際或は食卓につける時或は鳥獸に對せる時等幼兒活動の總てを觀察し其結果を統括して茲に始めて其一般を窺ひ知るの由御座いますすが總ての場合中最も多く最も無遠慮に彼等が特性を表出するのは實に其の自由活動即ち隨意遊嬉の時にあるので御座いますから此機會を利用して保育上最も必要なる個性觀察につとむべきで御座います
過ちて怪我したる場合の處置法を心得よ
母と乳母とが附添ふて居ても怪我をする時が有りますから況して少數の保育者が多數の幼兒の保護に當る場合には十分注意をして居て

も目の前で轉躓することもあり走り合へる兩
 兒衝突して美事な疣を出す事もあります而し
 怪我をするだらうと云ふて幼児の運動を矢鱈
 制限するのも宜しからず或る方などは少しは
 怪我もするが注意深くなつて宜しとさへ云ふ
 をも聞きなす位ですから十分に見張つて居て
 それで怪我を致した折はどうも致し方があり
 ません唯此場合には其救急法を手落なく行ひ
 出來得る丈け完全な手當をして家庭の怨を招
 かぬ様否よくまわらんなに親切にして下さつ
 たと思はせる位までにしてやるべきです、で
 幼稚園には一通り應急用の藥品や繃帶脱脂綿
 毛布小枕寢臺或は長椅子の様なものを用意し
 保育者は一通り救急看護法を辨へて居り出來
 る事なら近處の醫師を随時招き得る様に致し
 て置きたいもので御座います



幼稚園問題に就いて (承前)

和田實

手は前號に於て幼稚園問題に關する一二の問題
 に關して意見を述べた。所が夫れに就いて下谷
 なる形管氏より左の如き意見を送られた。方今
 名士の言論に非らざれば人は一顧の勞をも快く
 せざる時に當て興味なき學術的言論に對し斯く
 も熱心なる意見を發表せらるゝことは斯道の爲
 め如何にも悦ばしき限りと云はねばならぬ。尤
 も御意見中には小生の記述の粗漏であつた爲め
 に多少誤解された所もある様に思ふが先づ其書
 面を左に掲げて次に小生の意見を述べて見やう
 婦人と子ども第八卷第十一號紙上幼稚園問題なる
 一文を拜讀しました平生職務として従事せる所の
 ものなれば最も愛誦三復しました之を愛誦三復す
 るの至り二三の未だ充分領解し難き點も生じまし
 た之を不問に附せんか必竟斯業に忠實ならざるの
 至りかと考ました即ち夫等の點に就て一應開陳す

る事としました其疑點と云ふは主に幼稚園の非難
につきてありませす

先づ幼稚園は幼児を早熟にする傾向ありとの非難は
等の非難は嘗て一地方の人より誌上に出されし事
ありしやに覺へて居ませすが當時是は地方の學校に
て單に學校教育にのみ從事せられし人々の幼稚園
を推測せられたるものか或は幼稚園より出たる數
十の者の中に就て一二の者を認て速断せられたる
ものにては無きかと雲煙過眼に附したりしが斯會
を指導せらるゝ先生がしかく認めらるゝとすれば
後來斯教の上に於ても輕々看過すべからざる事に
して充分慎重に研究を要すへき事と考ました夫に
就きましては借越の至とは存じましたが先づ自己
の實際見し所に就きて述ぶる事後段の如くであり
ませす

私の見る所にては幼稚園に入りたりとて早熟す
ると云ふ事はなき者と考ませす最も時に一二早熟と
も見べき幼児なきに非ざるもその性質上然る者
にして幼稚園の保育を受たりとて然るにあらず縱
令幼稚園に入らざるも元々より然るにあらざるなり

然ば幼稚園の幼児に就て何か特點とも見るべきも
のはなきかと求めば物事に能く氣が附くとか或は
談話を聴く際にも身を入れて能く聴くとか理解力
に富るとかは確にあると思ませす是も大率五才以上
に就て云のでありませす一般を通じて云のではあり
ません是等の點は幼稚園保育の効果としてこそ見
るべき者にて決して悪き方に見るべき者にはあら
ざる事と考ませす普通一般のところにて幼稚園の保
育を経たる者が幼稚園に入らざる者と比べて劣る
と云事は道理に於ても無る可く考ませす

譬はこゝに學齡に達して小學校に入りたる二様の
兒童ありとせよ一は皆幼稚園の保育を受たる者二
は皆幼稚園の保育を経ざる者之を二教場に各別に
集て教るとせよ教師の勞は何れの方に多きと見る
か私は確に保育を経ざりし者の方に多きと考ませ
す

是は單に空想のみにてもありませせん一再學校にて
新入生徒の有様を實見して浮びたる感でありませ
其亂雜なること恰も新兵が入營したる時の光景も
此くやと思れませした

幼稚園出身の兒童は遊び半分に物事をするといふ非

幼

難是の非難も幼稚園出身者にありと云へばあり無
 きと云へば無きとも云ふ可き漠然たる如き觀が
 ありまして恐くば確然たる判断は下し難かるべく
 却て幼稚園の保育を経ざる者にも多々なるべく必
 ず幼稚園は幼児の事なれば遊びでもある稽古でも
 あると云ふ點は無埋ならぬ事かと考ます然し此く
 は云ものゝ幼兒として惡習癖等ある者は手強くこ
 そせざれば時月を追て漸々矯正し其他言語や行儀等
 に於ても亦然り談話に於ても幼兒の興味を感じ理
 解し得る範圍に於て中に修身の端緒ともなるべき
 者を夾みて聴かしむる等歸着する所はどことま
 ても徳性の涵養、智能の啓發に置くものと私は信
 じます又擧られたる所の或る一部の人の説にも大
 体に於て左袒します規則も改正すべき時機が來ら
 ば改正するは止を得ざるべきか
 扱又幼稚園出身者につき一より五に至る非難を列
 擧されてあります先づ其一たる幼稚園出の者は
 人に狎れ易さとの事は等は別段弊害として見るべ
 き程の者とは思はず場合によりては効果とも認む
 ることを得べく其餘も亦全然捕捉し安からざる底

の事にして擧て論ずるの價値なきかと考ます
 幼稚園の課目なる説話唱歌遊戯手技等に就て何を
 主とするかと云ふ事には私は皆同一に重要視して
 偏重なきかと考ます必竟幼兒をして喜んで従事し
 交互轉換して倦厭なからしむるのみであります
 遊戯に因りて幼兒を感化誘導するとの事に就ては
 少々不明の點も之れあります如何となれば一体遊
 戯と云へば唱歌の意味を動作に形容して運動する
 者にて精神上よりも寧ろ体育上に影響ある者かと
 考ます
 之を要するに幼稚園に就きての問題は充分慎重に
 其の極處を究めざれば濛々泛々として舩なき舟の
 如く後來斯業の發達亦望む可らざるべく從來と云
 はす今後と云はず若し幼稚園の効果を以て不得要
 領の中に抹殺し去るが如きことあらんには實に歎
 息の至りであります
 然らばすなはち之を解決せんには如何んすべきか
 と云ば夫の耕すことは農に問ひ織ることは女に問
 ふと云ふ譬の如く先づ斯業に従事する人々の意見
 を徹し其多數を占るの言に據り然る後とせば其正

鵠を誤らざるに庶幾んかと考ます

明治四十一年十一月

所存ありて覆面のまゝ、非禮の段は坦懐恕せ

られん事を願はず 東京下谷 形 管

右に掲げたる某氏の意見は大體に於て至極適切なる御意見で小生も別段反對する餘地を見出さぬものであるが唯小生の前號に記述せる所は主として幼稚園の受けたる非難に就いてのみ説明したので従がつて幼稚園の利益ある方面を闕却した傾があつた爲めに小生の眞意を某氏に傳へることの出来なかつたのは遺憾なことであつたと思ふ。因つて今某氏の意見の重なるものに就いて小生の思ふ所を茲に補足して見様と思ふ。併し大體に於て小生は形管氏と同意見であるから其御積りで御覽を願ひたい。

一 幼稚園出身者の早熟なることに就いて反對されたることは至極御尤もな議論だと思ふ。殊に現在に於ては決して幼稚園は子供を早熟さする所ではない。併し過去に於ては一般を通じて多少斯る傾のあつたことは確かな事實であると小生は考へるの

である。是は現今の保育法が行はるゝ前に於て如何に幼稚園保育法が行はれたかと云ふことを歴史的に調べたらば明かな事ではあるまいかと思ふ。且又幼児を早熟にすると云ふことは何も幼稚園のみに限らず。一般の幼児教育即ち家庭教育其ものが過去に於ては悉く皆然りと云ふ可き程であつたから幼稚園に於ても此傾を持つたのは當然の事であつたらうと思ふのである。若し過去の幼稚園が幼児を早熟にしなかつたとするならば當時の父兄は決して自分の子女を幼稚園によさなかつたに違ひないと思ふのである。何んとなれば早熟を好むと云ふことは我國一般の思想で三島博士の云はるゝ如く人種的に早熟なる日本人としては當然の傾向だらうと思ふのである。

次に幼稚園出身者是否出身者より決して劣る理由なしとの事、是は小生も双手を上げて同意であることを主張しなければならぬ。幼稚園教育者は専門の教育家である。専門の教育家のする所が家庭に於ける素人のする所に劣るを云ふ理由は到底見出すことは出来ない。之は形管氏の云はるゝ所に

一言も異議す可き所ではなからうと思ふ。併し斯く云へばとて讀者は決して誤解してはいけぬ。専門教育家の保育した所だからとて決して完全無缺ではない。優れて居ると云ふこと、缺點がないと云ふことは必ずしも一致はしない。故に吾人は從來の幼稚園出身兒は種々なる缺點を持つて居つたことを認めると共に之を否出身者に比しては確かに優秀な所があつたと云ふことは之を認めるのである。

一形管氏は次に遊戯を以て幼児教育の主体たらしむることに就いて疑はれた。併し此疑問は同氏の遊戯の定義と吾人の遊戯の定義との差異から來たのである。是は議論にはなるまいと思ふ。同氏の云はる如く唱歌の意味を動作に表はすと云ふ類のものが遊戯であると云はるならば小生も形管氏と全然同意見であるが併し前號に述べた遊戯と云ふのは形管氏の云ふ所のものとは餘程其意味に於て廣狭の差があるのである。併し其は今茲で小生が自分の意見を述べるよりは本號中に掲げた後藤ちとせ氏の意見を御覽になつたらば廣き意味に於ける

遊戯と云ふのは果して如何なるものであるかと云ふことが判るだらうと思ふから茲には略さうと思ふ。

要するに形管氏の意見と小生の意見と衝突する様に見えたのは畢竟小生の記述の粗漏の結果ではあるまいかと思ふ。

兎に角小生等の記述に對して執筆の勞を惜まれなかつたのは同志の士として敬服に堪へぬ次第である。以後希くは共に俱に斯業の爲めに益盡力

したいものである。折もあらば常集會等に於ても親しく御意見を伺ひたいし自分の思ふ所も御話して見たいと思ふ。時本誌原稿一切に際し取り急ぎ思ふ所を斯くなん。(湘南生記)

善智識に四輩あり。一には、外は、怨家の如くして、内に厚意あり。二には、人(友)の前にては直諫し、外にては、人の善を説く。三には、病み煩ひの時、又は、罪人となりし場合には、驚き恐れて、これを救ふ。四には、人の實蹟を見てはすておかず。方便を求めて、これを富まさんと欲す。

吾人の道往觀

樂 天 子

一、交際に就て

交際は處世上欠くべからざる個人若くは一家相互の關係であつて、もし交際の道なくんば、世上はまことに無味乾燥である、交際あつて始めて幾多の趣味を生じ社會の利益を見らるゝのである、上古人類の少き時に當りては、蓋し交際なるものはなかつたのである、然るに人類漸く繁殖し、分業行はれてより茲に始めて各人の交際を結ぶに至り、幾個の家族分立して又始めて一家の交際をなす様になつた、交際は單に人生の趣味快樂を與ふるに止まらず、又幾多の裨益を與へ、己を喜ばしめ、同時に人を喜ばしめ、亦自家をも益し、同時に他家をも益するので、社會は之を以て活動し、國家は之を以て進歩發達するのである、今交際なるもの、範圍を類別して左に之を述べん。

一、親族間の交際、親族とは我が現行民法第七百

二十五條には(一)六親等内の血族、(二)配偶者、(三)三親等内の姻族を以て親族とすべき規定である、然れども余が茲に親族と稱するは、從來の習慣及び地方の慣例によりて、普通に親族と云ふものをいふのである、其一家相互の家族間に於ての交際をなすは、今更説明するの必要はない。

二、知人間の交際、知人とは朋友師弟は勿論雇主と被雇主の相互間に於ける、或は有職者の長上者、同僚下僚相互間に於ける等其範圍は頗る多くある。

三、近隣間の交際、近隣とは地方の慣例により、或は多少の差異あるべしと雖も、俗に所謂向ふ三軒兩隣の義にして別に意味のある譯ではない。

凡そ交際の仕方は其相互關係の厚薄深淺及距離の遠近、身分の上下責賤等によりて異同がある。故に以上三種を通じて均一にすべからざるは勿論其一種間にありても亦異同なき能はず、然れば人は先づ其家の身分其人の身分の如何及び相手方との關係の度を斟酌して、之に處せざればならぬ、約言すれば、其分限相應の交際をなすべきが必要で

ある。何となれば交際なるものは、寒暑贈答の往復に止まらず、年内二季の贈品の勿論、土産又は婚姻、吊祭には夫々物品金錢の贈與あり、又集會等に要する、飲食費の如きに至ては、其類は随分莫大の費用を支出し、一家經濟上至難の境愚に立つなき能はざるが故に交際の程度を定め置くの必要があるのである、而して其の程度なるものは、到底劃然と定むることを得ずと雖も大略左の標準に依らば左程の相違はなからうと思ふ。

第一、普通の關係なる個人又は一家の間に於ては其の貧富貴賤に抱はらず自己又は自家と同一の地位にある世間の他の物と比較して、同様の取扱をなすこと。

第二、自己又は自家が恩恵を受けたる、若しくは受けつゝある人、又は其家に對しては、第一に比し相當の割増を要すること。

第三、近親は遠親より重くすること。

第四、概して親族間は知人間より重くすること。

第五、近隣は親族に亞くこと。

要するに以上の標は準概則たるに過ぎず、何とな

れば、知人にして其の關係遠く近親に勝るものあり、近隣にして其情狀或は親族の右に出づる者もあり、富貴の人必ずしも交際の廣さものにあらず貧賤の人亦必ずしも交際の狭きものにあらず、然れば是等一切の事情につき其本未輕重を計り、其宜しきに從ふは自然の大法である。

二、道徳と禮式

道徳學といひ、宗教といひ禮式といひ、その論ずる所、説明するところは、各々異なれりと雖も、皆人道を説明するの一端に過ぎぬのである。禮式とは東洋に最も多く、西洋には少く其源は支那聖人の道に紀元を起し、今日まで遺傳せらるゝのである、道徳學とか宗教學とか三ふものは、西洋にも東洋にもあれども、重めに此の名稱の下に人心の改良維持を謀るは、殊に西洋諸國に於て盛に行はるゝのである、彼の孔孟の禮式を重んじて之を人民の風俗となしたる精神は、普通人民の皆一様に倫理の興義を達し、人道を尊奉するとは、至りて至難の事である、只これは聖者賢人のみに能く行ひ得らるゝばかりである、普通人民には、此の

如く至難の事を教ふるよりも、先づ斯々の事をなすは禮にわらずとして、器械的に之も禮にわらずと、恰も政府の法律命令の如くに人をして之を守らしめたのである、西洋の倫理學なるものは、之に相反して、何故に男女席を同ふるときは眞正の行爲を誤るか、何故に父母を敬せざるべからざるか、何故に夫婦の大倫は破るべからざるか、斯々の理由ある故に父母を愛せざるべからず、朋友に信義なかるべからず、男女席を異にせざるべからずと、其道理を詳細に説明して教ふるのである、要するに西洋に於ては其道理を教へて道に從はしむる禮式である、東洋は禮式なるものを器械的に注入して道に從はしむるのである、故に兩者其方法を異にすると雖も、其精神に至りては、少しも相違するとはない、一は以て内部より教へ一は以て外部より之を教ふるのみである、夫故に支那及び本邦の禮式を廢するにも及ばず、西洋の倫理學を輕視するにも及ばない、要するに兩者を宜しく應用して、人倫道德の道に達せしめねばならぬ

俳句雜

朝寒に鍋の墨かく女かな
 霜の夜や方丈更けて灯のもる、
 初霜の日にしむ竹の葉かな
 冬の月水も光りて流れけり
 杖立て茶の實を拾ふ小春かな
 山茶花や壁に日當る外圍
 袴着や武家の風もすたれぬる
 小春日の湖は晴たり滋賀の里
 日のあたる二階の窓や吊し柿
 御祝儀に雀おどりや一茶の日
 古塚の落葉の上に落葉かな
 軍談を聞くに嬉しき炬燵かな
 城跡や梅檀もありて冬木立
 身の上を易者に聞きて夜寒かな
 行燈のくらき小言や今年酒
 厂渡る頃を朝寒夜寒かな
 朝寒や人に物言ふ壁となり
 朝寒や懐手して櫛の先
 行秋や取りのこされて柿ひとつ
 屋根高き野中の寺や星月夜
 寄席を出てそば屋に遣入る霜夜かな

鹽野奇零

全全奇全全業全き全業全青全露全秋全樂全全
 泉 番 月 窓

少年時代の追懷

佐 治 實 然

行燈の下で十八史略の素讀の素性は姓名に表はれて居る通、元は眞宗の僧侶で、播州姫路の東北三里半程の片田舎で、圓燈寺と云ふ寺に生れたものであります、其寺は小さい貧乏寺で、少年時代には随分貧乏生活を味はつたものであります、私の父は寺子屋を始め、まだ其では會計を満たす事が出来ないで、瀬戸物屋から、茶碗や盃を取り寄せて、其繪を書く事を内職として居たものであります、其外に寺に家傳として、乳一切の妙藥と云ふものを賣つて居りました、さう云ふ中で私等兄弟三人を父が育てたのであります、或る時、米の價いが非常に高い時がありました、其時は大きな釜に朝は脣を焼くやうな熱いお粥で晝は其さめて居る儘をたべるのであります、それに田舎味噌の鹽辛い味噌漬や香のものを副て

すますのであります、下駄の鼻緒は父が棕櫚繩をよつて心にし母が手織綿の着物の破れた小切れをもつて其の緒を拵へました、下駄の齒入も米搗きも人手を借りしてた事は一度もない、大抵私の両親がして居りました事を、今に覺へて居ります今の青年たちには、殆ど分らん事だらうと思ひますが、私等の子供の時には、らんぶ等は勿論なかつた、況や瓦斯も電燈もあらう筈がありません、夜は、行燈の火の下で仕事を居たのであります、父は紙捻細工をする、母と姉は、澁柿の皮をむいてつるし柿を拵へて居る、其側で私は十八史略の素讀をして居つた事等が今に心に恍惚として見へて居ります。

今猶耳の底に残る嘲弄的の歌

子供の時から、此貧乏寺の小僧として、村の子供等から嘲弄される事が非常に残念で、何とかして豪い人間になりたいと云ふ志が始終胸の中に溢れて居りました、坊主法界螺の貝一日吹いたら米五合、と村の腕白小僧が私に向て放つた嘲弄的の

歌が、今でも耳の底に残つて居ります、慶應三年私が十二の時、私の村から一里程北にある貫良法印と云ふ天台宗の學者の下に通學する事になりました、それから彼方此方と、漢籍の素讀や、講義を聴くやうになりました、私は小さい時から、どう云ふ譯か、十露盤が好きで、八算の手ほどきを人からして貰つて、あとは塵功記等を借りて開平開立までは一人でやりました、其時の面白味は今でも忘れられません。

福澤翁の西洋事情の感化

十六歳の時即ち明治四年に姫路に飾磨縣と云ふ縣廳が置れて、其時分始めて小學校が出来た、某時分小學校の先生と云へば、僧侶か醫者より外になかつたので、たまたまに士族が教員になつたのも居りましたけれども、一般に洋算が出来ないので、私は算術が上手であるとの評判から郡費で更に算術を習ふ、ことになつて、小學校の教員に加減乗除から分數の初歩までを教へて歩く役を仰せつかつて、始めて月給を貰うたのであります。此時分に丁度福澤諭吉氏の「西洋事情」を始めて讀んで、私

の志は全く一新したやうな心持となりました、續いて「博物新篇」「氣海觀瀾」「輿地史略」等を讀んで之では西洋の學問をせねばならんと云ふ考へを深く其時に起しました。

大枚四圓の月給

十七歳の時、播州に中學校が四ヶ所設けられて、私は小野の中學校に這入りましたが、漢籍と洋算がどうかすると先生よりは少し能く出来たのでいきなり其中學校の舍監を仰せつかりました。

十九歳の時にはまだ丁年に達せぬに拘はらず縣廳に副戸長と云ふので出て大枚四圓の月給を貰ひました月給は四圓でも三十錢の旅費日當を給與されたので、始めて十圓の月給取りとなり始めて洋服と云ふものを着たのであります。これが明治七年であります。

それから二十二歳の時に、國を去て、京都に出て東京に出で、世路幾變遷、遂に今日のやうな、佐治實然となつたのであります、少年の時いくらか發憤の動機となりましたのはつまり寺が貧乏な寺であつたのと、村の子供等から輕蔑を受けたからで

あつたと信じて居ります。

都會の兒童菽麥を辨せず

高島平三郎 述

余は母の喪に丁り毎日大崎の寓を出でて池上の墳塋に詣ず。時々長兒（年十四歳にして中學校の一年生）を伴ひ二里にして近き野路を歩み路上目に觸るる草木の名を問ひ試む。其の無知の甚しき余をして喫驚せしむるものあり。因りて思へらく是れ偶々余が兒の特性自然物に對する興味薄くして然るならんと。其の後他の同年輩或は既に青年の域に入る學生に就きて之を試むるに宛も我が兒の無知なるが如くに無知なり、都會の學校にて教育せられし兒童にかかる傾向ありとすれば教育者は之が改善に大に注意せざる可らず。近來教育の法議論徒に多くして實效之に伴はざるは一般の弊風たり。都會の兒童菽麥を辨せざるもの或は此の弊に基かざるを知らんや。ただ余の經驗は僅か二三の兒童に就きて之を検せしのみなは一般父母の

實驗に待つこと切なり。因に余が實物を指點して其の答を求めたる草木は左の數種なり。一般會員諸君が兒童に就きて之を問ひ試みその結果を報道せられんことを望む

- | | | | | | |
|---|-------|-----|----|------|-----|
| 一 | ケヤキ | 榊 | 十 | モミ | 樅 |
| 二 | エノキ | 榎 | 十一 | ヒロラギ | 柞 |
| 三 | タリ | 栗 | 十二 | ヒメ | 杜松 |
| 四 | クヌキ | 桐 | 十三 | カキ | 榧 |
| 五 | カシ | 櫻 | 十四 | ハシ | 黄櫨 |
| 六 | ヒノキ | 檜 | 十五 | ムクゲ | 榿 |
| 七 | カリヤマキ | 高野槭 | 十六 | コウゾ | 楮 |
| 八 | ナラ | 檜 | 十七 | カナメ | 扇骨木 |
| 九 | ツゲ | 黄櫨 | 十八 | ドクダネ | 蒨天竺 |
- 以上の中栗は榎果の附着せるものをば正當に答へ得たれどもその他は何れも之を知らず。桐に果實の附着せるをばドングリノ樹と呼べり。更に田畑に作れるものの中實物を知らざるもの左の如し。
- | | | | | | |
|---|--------|-----|---|------|-----|
| 一 | ハウレンサウ | 蕪藜草 | 六 | キンゲン | 隱元豆 |
| 二 | ゴバウ | 牛蒡 | 七 | チカボ | 陸稻 |
| 三 | ミヅバ | | 八 | ツケナ | 蘆菜 |
| 四 | アハ | 粟 | 九 | ソバ | 蕎麥 |
| 五 | モロコシ | 蜀黍 | | | |
- (兒童研究)



指吉之話

硯山人

昔むかし、ある所ところに一人のお爺さんとお婆さんが住んで居まりました。お爺さんは毎日山へ行いつて薪を取とりたり草くさを刈かつたりするのが仕事、お婆さんは家に居いてお洗濯せんたくをしたり、裁縫さいほうをするのが役目やくめで別段べつだんの苦勞くろうもなく不自由ふじゆうもなく至極樂しごくらくに暮くして居いりました。けれども唯々ただただ一つ不足ふそくなことは此二人このふたりの老人らうじんには未だ二人の息子むすこもありませんでした。それで或日あるひのこと爐いろの兩傍りょうぼうで焚火たきびをしながらお爺さんの云いふには

爺ナア、婆さんや、私ももう追々おひくとも年をとつて来たしお前まへもだんく老おぼれになつて来たが、唯の一人ひとりも息子むすこがないとは情なさけないナア。」と云いひますと、

婆、ホントニネー、せめて指位ゆびぐらゐの大きさおほさの子供こどもでもいゝから生うまれて來きれば、何なんんなに懐なつれしいか知しれや知しれないがねー」

と二人の老人が話して居たのが神様のお耳にでも入つたのか、それから暫くするとお婆さんはお腹が痛くなつて一人の男の子、然も大きさが漸つたのことで母指の大きき位な男の子が生れました。爺さん婆さんは大喜びで、指位の大ききだからと云ふので之に指吉と云ふ名を付けて、夫れは大事に育て、居りました。初めの中は始終お婆さんの懐の中に入れてられた切りで時々お婆さんの着物の襟の處から首を出したり、懐の中を驅けづり廻はつて遊んで居りました。そして大層丈夫な子で生れてから一寸も病氣になつたことがありません。唯不思議なことには、いくら乳を吞ませてもいくら食物を食へさせても少しも大きくなりません、矢張り生れた時と同じ様に何時過經つても勢の高さが母指位の大きき切りありませんでした。併も身体は此様に小さきとも指吉は中々精巧なそして活發な子供でありました。

指吉が一番好きな遊びはお爺さんと一所にお山へ新切りに行くことで、例も其時はお爺さんの懐の中に入つて、褌衣のぼたんを踏み臺にしてお爺さん

の喉の處から首を出して前の方を覗いたり、或時は後へ回はつてお爺さんの襟から首を出して後から引かれて来る馬にからかつたりするのが何よりもの楽しみでありました。又山に着いてからはお爺さんのお辨當の箱の上に載つて馬の番人を仕ながらお爺さんの薪切りを見て遊んで居りました。此様にして毎日、指吉はお爺さんお婆さんに可愛かられて暮して居る中に一つから二つになり、三つから四つになり、五つになり、六つになり、七つ、八つ、九つ、十となつて、遂々二十にもなつて仕舞ひました。ソコで指吉は或日のことお爺さんお婆さんに向て云ふには

「指、お爺さんお婆さん、何ぞ私に一年の間お假を下さいまし。私は是から世界中を回はつて来ようと思ひますから」と云ふと

爺、それは、感心な事ぢや、それでは随分氣を付けてお出でよ」と許して來れる。

又お婆さんは

「一年とは随分長いね、出來ることなら成る可く早く歸つて來てお呉れよ」と云ふので、指吉は

支度をして愈出掛けることになりました。愈出掛
け様とした時に老爺さんは豫て用意して置いた小
さな鐵砲と小さなサーベルとを下いました。又お
婆さんは小さな袋に小さな丸薬を入れて
婆「お腹の痛いときには之をお呑みよと云つて下
さいました。」

指吉は老爺さんお婆さんにお暇乞して家を出掛け
て先づ兎も角も隣りの國へと參りました。何しろ
旅と云ふことは始めてなので見るもの、聞くもの
面白いものばかりで足の疲れも忘れて其處此處と
歩るき廻はつて居りましたが、其中に日は夕方に
近くなつてお腹は飢いて来る、足はくたびれて來
ましたので、とある宿屋へ入つて

指「モシ、番頭さん、私を宿めて下さい。」と云
いました。今しも帳場格子の中で頻りと帳面に何
か書いて居た番頭は

番「へい、入らしやいませし、オイ誰か居ないか？
お客様御案内だよ」と云ひながら筆を置いて店
先を見た處が、是は驚いた、今確かに聞いたと思
ふお客様が見えない番頭は目をキョロ／＼しなが

ら

番、ハテナ、變だぞ、確かにお客様が入らしつた
に違ひないが、ソレトモ自分の早耳だつたかな
？」と獨り言を云つて居る。番頭に呼ばれて出
て來た宿屋の下女は番頭の一人言を聞いて
下女「イヤナ番頭さんだね、お客様も來ないのに人
を呼んでさ、そして獨り言など云つて居る。」と
云ひながら下女はドシ／＼奥の方へ行かうとする
と、不思議、人の影も見えないのに

逆「モシ、お客様は茲に居るよ、敷居の上
に居るよ」と云ふので、能く／＼見ると成る程母
指位の小人が一人小さな鐵砲と小さなサーベルと
を持つて立つて居たので、番頭と下女とはオヤ
／＼／＼と云つたさき暫くは開いた口が閉が
りませんでした。併し何しろ是でもお客様には違
ひないので番頭は早速下女に云ひ付けて盥に水を
汲ませて小さなお客様の足を洗はせ、小さな三疊
敷ばかりなお座敷を掃除させて通させました。か
れこれして居る中に御飯の仕度が出来て下女がお
膳を持つて來ましたが困つた事にはお箸もお茶碗

もあたり前の大人の遣ふもので指吉には逆も持てません。お碗の中には甘い汁が入つて居りますけれど指吉には背が屈しません。仕方がありませんからお膳のふちへ乗つてお茶碗の御飯を食へては馴け下りてお皿の處へ行つて例の小さなサ―ベルを抜いてお魚を切つて食へたり、かまぼこを切つて食へたりして居りました。フト向ふを見ると黄色いきんとんの山が甘まさうにうづ高く積んであります。指吉は早速之へ飛んで行つて大きな甘まさうな栗を目がけてサアベルをツブリと突き指しました。さて持ち上げ様とすると動かばとぞ。突き指したサアベルが折れる位に曲つてもまだ動きません。ソレハ其筈です、栗の大きさは指吉の身体よりも大きい位なのです、仕方がありませんから指吉は思ふさま栗の角の所へ噛みついて少し計り食ひかきました。其中に下女が來ましたので漸つとのこと食へさせて貰つてお仕舞に致しました。

順が夜も更けて寢る時になりましたが指吉に都合のよい布団がありません。そこで宿屋の娘はお

雛様の箱から人形の夜具を出して貸して呉れまして之に寝ることに致しました。朝になると宿屋の娘の千代野さんと云ふ娘は面白がつて指吉の處へ遊びに來て種々な話を致しました。そして御飯は千代野さんと一所にお雛様の道具で食べお茶道具もお雛様のを借りることにしました。朝飯を仕舞ふと千代野さんは學校へ行く仕度してやつて來て

千代野さん「私は學校へ行つて來ますから今日宿まつて入つしやい、歸つて來たら又お雛様をこして遊びませうぬ」と云つて行つてしまひました。

指吉は暫く後見送つて居りましたが何を考へたか不意に表へ馴け出して今しも千代野さんが靴を穿いて居る暇にそうと千代野さんの袂の中へかくれてしまひました。順が學校へ行つて見ると澤山の生徒が廣い運動場で鬼事やら馴つこやら色々な事をして遊んで居りますので指吉はウツカリ歩かせん。そこらにウロ／＼して居るものなら何時踏まれて仕舞ふか判りません。一生懸命袂の中に

つかまつて居りましたが時々千代野さんが驅け出したり手を振つたりする度に袂が揺れて指吉は今にも落ちそうになつたことは一度や二度ではなく其度に二つとない肝を幾度もつぶしそうになりました。

其中にお稽古の始まる如らせがチリン〜と鳴ると澤山な生徒は直に例の通り運動場に整列して先生の出て来るのを俟つて居ます。指吉は此間にソツト千代野さんの袂から抜け出して運動場の隈の塀の柱の根下にかくれて居ました。頓がて先生が大勢出て来るのを見ると嚴めしい恐い顔したひげむぢやの校長先生やら始終にこ〜として居る唱歌の先生迄ズラリそこへ並ぶとひげのない細い身体の体操の先生が黄色い聲を出して

「指吉を付け！」と號令を掛けると其聲のおしやいになるかならぬ中に又運動場の隈の方から指吉が

「指吉を付け！」と眞似をしました。体操の先生は指吉の居ることは知らないものですから「教誰ですか、先生の眞似をするのは、號令の眞

似などしてはいけません。」と云ふと、指吉の眞似などしてはいけません。」とまた誰か眞似をしました。先生は大層怒られて「教誰ですか、今また眞似をしたのは？」と云はれましたが、誰れだか一向判りません。

其中に時が経ちますので「教前へ進め！」と云ふ號令を掛けると、また指吉小さな聲で「前へ進め！」と云ふのが聞えましたスルト先生は

「教何うり變だ。何でも此邊に違ひない。」と云ひながら指吉の居る所を頻りに探して居ましたが何にも見付かりません。其中に生徒は教場に入つてしまひましたので指吉も宿屋へ歸へつて仕度をして此處を出立することにしました。だん〜行つて或村はづれに來ました所が向ふから一人の農夫が馬に薪を背負はせて來ましたが、何うしたのか農夫は急にお腹でも痛くなつたと見えて倒れてしまひました。指吉は驚いて耳のそばへ驅けよつて「指モシ〜お前さん、何うかしましたか？」と

聞さすすと、

農「ア、いたた、お腹が痛い〜」と云つて居ます仕方がありませんから指吉は

指「お前さんの家は何處だね、馬を屈けておして家へ知らせて上げるから待つて御出なさい。」と云ひましたので農夫は

農「有りがたう御座います。何うぞ願ひます。」と云ひながら目を開いて見ましたがおヤ誰も居ません。

農「ハテ變だな、今茲に誰か居た様だつたが？何うしたんだらう？」と不審がるのも無理はありませぬ。

指「若し〜、お農夫さん、僕は茲に居ますよ、貴君の耳の處に居ます、と云ふ聲に驚いて能く見れば背の丈一寸五分ばかりの小人が立つて居ましたので百姓は喚驚仰天、お前さんかへ今私の馬を引いて行つて道らうと云つたのは？」

指「さうさ、私さ、お前さんがお腹が痛くて歩けないと事ふから家へ知らせて上げ様と思つたのさ〜」

農「けれど、お力さん、そんな小さな身体では馬は引かせんよ」

指「處がそうでない。私馬の耳の處へ乗せて呉れ、私は一人で馬を指圖するよ。」と云ふので百姓は大悦び早速指吉を馬の頭の處へ乗せて道を行く能く教へて呉れて自分は草の上に寝て待つて居ました。指吉は馬の耳の所で

指「ハイ〜、ド〜、ド〜」コラ子供、あぶないぞ」などと叫びながら馬を驅つて行きました。道行く人や子供などは驚いて

女「オヤ、あの馬を御覽よ、馬子が居ないよ、そして「ハイ〜ド〜」なんて云つてるよ、誰が云ふのだらう？」と不思議に思つて目を圓くして居ました。指吉は田圃道を通り藪の蔭を抜けて、トある谷間の百姓家の前迄來ました、スルト家の中から出て來た女房さんは

女「オヤ〜、黒が一人で歸へて來てお父さんが見えないが、何うしたんだらう？」

指「モシ〜、お女房さん、お動さん所の人はずいぶんお腹が痛いつて寝て居るから私が馬

丈連れて来たのだよ」と云ひましたがお女房さんには聲ばかり聞えて一寸とも見えませんので、目をキョロ／＼しながら、

女ナニ、家の人がお腹が痛い？、ソ、ソリヤ大變だ！、だがお前は誰だへ隣の重太さんか、ソレントモ瀬戸の権さんか、私にはさつぱり見えやせん。」と云ひながら目を幾度も／＼こすつては見て驚いて居ました。

指「お女房さん、そんなに驚かなくてもいいよ、僕は馬の耳の處に乗つてゐる、小人だよ」と云はれて始めて見れば、成る程一人の小さな小人の軍人！お女房さんは二度びつくり、さもたまげましたと云ふ顔付で頻りと指吉を見つめて居りました。指「頓がて気が付いて大急ぎで薬を探して町はづれ指して驅けて行きました。其中に指吉は手綱を傳はつて下りて來て椽端の柱に馬を結び付けて何處ともなく行つてしまいました。だん／＼行つて或王様の國の都に來ました所が生憎其日は朝から大變な大風で町の中はほこりが一杯で逆も目もなにも開いて居られませぬ、方々の

家では半分戸を閉めて道行く人は帽子や襟巻を吹き飛ばされぬ様に一生懸命手で押へて歩いて居ました。唯の人でさへ是ですからたまりませぬ。指吉はうつかりすると吹き飛ばされそうです。風がブューと吹いて來るが早いか其處等にある木でも草でもしやにむにかざりついて漸く免がれると云ふ譯でした。其中にゴーと云ふ凄しい音がしたかと思ふと町の向ふの方から砂ほこりを眞黒に巻き上げた風がブューツと吹いて來て「アツ」と云つて

居る間に指吉は空高く吹き上げられてしまひました。暫くは雲の間をあらちらと吹き飛ばされて居ましたので指吉の眼は眩み耳は鳴つて氣が遠くなつてしまひましたが、其中に風の力が弱つて指吉は或御庭のなかに落とされました。幸に何處にも怪我はしませんでしたので起き上つて

指「ア、ア、ひどい目に合つた。も少しで死ぬところだつたがまあ仕合せに能く助かつたもんだ、と獨り言を云つて居ると何處からともなく一人の御役人が肩には金モールの付いた嚴しい洋服を着けたのが頻りとキョロ／＼しながら

役誰だ？今何か云つたのは、茲には誰も体ない筈だが？怪しからん奴だ」と大層怒つて居るらしいので指吉は

指「ア、モシ、此處は何處ですか、誰れの家ですか？」

役「オヤ、また云つた誰だ？今何か云つたのは？何處に居るんだ？此茲が何處だか判らぬ奴があるか？此處は王様の御庭だぞ、ぐづぐづ云つて居ないで早く出て来ないか、何處に居るんだ？」

指「何處に居たつていゝやい。風に吹き飛ばされて来た指吉だ。王様にさう云つて御馳走の支度でもしろい。」と云ふ所を能く々々見ると山吹の木の下に一寸坊師の軍人が立つて居たので役人はびつくり

役「ヤア、是は珍しい、定めし王様が御祝びになるだらう」と云ひながら手を出し指吉を摘まうとしました。摘まられては堪りませんから指吉は大急ぎで飛び退きながら、例の小さなサーベルを抜いて役人の指をブツリ

役「アイタ、アイタ、何を？此一寸坊師め承

知しないぞ」と怒りました。そして大急ぎで外の役人の所へ云ひ付けに行きました。スルト上役の下役人だのと云ふ役人どもが「ナニ一寸坊師其奴は珍しい、行つて見ろ」と云ふ騒ぎで王様の御庭は急に見せ物場見た様になりました。此騒ぎが王様に聞えしたので王様は

王「コレ、庭の中で何を騒いで居る？」と御仰せになる。役人どもが是々彼様ぐづぐづで御座いますと申上げると

王「夫れは近頃珍しい。是へもて」と御仰せになる。けれども摘まぬ譯にも行きませんから役人が手を出して

王「サ、一寸坊師さん！王様の御召だよ、是れへ御乗りなさい」と云ふと

指「王様の御召！よし／＼夫れでは行つてやらうが途中で落してはいけないぞ、それから手を握るとサーベルで突く突くぞ」と云ひながら役人の手の上に乗りました。役人は王様の所へ行つて御目に掛けると

王「是は面白いのだ」と云ふ譯ではから指吉は

御殿の中に暫く逗留することになりました。半年ばかり経つ中に此國の王様と隣りの國の王様と戦をする事になりました。

そこでこちらからも兵隊を繰り出し向ふからも軍隊を繰り出して國境の戦場で幾度も幾度も戦しましたが一向勝負がつかまません。或日のこと指吉は王様の前へ行つて申しますには

「私が是から敵の陣屋へ行つて敵の様子を見て参りませう。」と云ふと王様は大層お悦びになつてわざと一疋の百姓馬にきたない鞍を置いて夫れには人を乗せず、馬の耳の所に指吉を乗せて遣りました。敵のものは之を見て

甲「なんだ、此馬のきたないことは？」と云つて馬鹿にして居ましたが誰一人捕まへ様ともしなければ、勿論指吉の乗つて居ることなど見付けるものはありませんでした。

其中に指吉は充分に敵の様子を見て置いて味方の方へ歸つてしまひました。夫れから王様の所へ行つて詳しく敵の様子を申上げましたので其翌日は大變な大勝で敵はさんぐに負けて逃げて行つて

しまひました。王様は指吉のお蔭で戦に勝つたので歸つてから大層御悦びになつてお褒美には何でも指吉の望むことを叶へて遣らうと仰せられました。指吉は

「指吉もほしいものも御座いませんが國に老人二人残して置きましたから、何うか是を呼んで遣つて一所に安樂に暮したう御座います」と申上げます王様は夫れは易い願いだ」と仰しやつて早速澤山な兵隊に指吉を守らせてお爺さんお婆さんを迎へに遣り永く三人を御殿の中に置かれて一生安樂に暮しましたとさ

めでたし~~~~~



●●豫約募集●●

フレイベル會編纂

幼稚園遊戲的 手工圖形

定價

金壹圓五拾錢

郵稅

未詳

右は主として幼稚園に於ける手技及小學校の初學年に使用せらる可き手工の圖形約四百個を蒐集したるものにして新教育主義の實現上必要なる教材書なり。本會は特價金壹圓を以て五百部を限り豫約募集す希望者は至急申込む可し、但し應募者既定數に満たざる時は出版せざる可し。

東京女子高等師範學校内

明治四十一年八月

フレイベル會

卷一第書叢育教兒幼

東京女子高等師範學校教授
東京女子高等師範學校助教授

中村五六
和田實 合著

幼兒教育法

菊版美裝紙數約二百五十頁
定價金壹圓 郵税金拾錢
フレーベル會員一割引

一名改良せらるたる幼兒保育法

教育の隆盛前古に比なき明治の聖代にも未だ幼兒教育に關する系統的説明を試みたるものなく所謂名士の斷片的言説の徒に世人を迷はすあるのみ。是本書の因つて出づる所以なり。世の父兄たり教育家たるもの精讀せざる可からず。

發行所

東京女子高等師範學校内

フ
レ
ー
ベ
ル
會

發賣所

東京市神田區表神保町

東
京
堂

賣發りよ日一月本製既